

自然生態系を基盤とする防災減災推進について

～庄内川流域を対象に生態系機能ポテンシャルマップの作成 等～

資料2-3

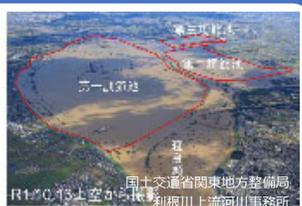


- かつての氾濫原や湿地等の再生による流域全体での遊水機能等の強化に向けた生態系機能ポテンシャルマップの作成。生態系機能ポテンシャルマップについては、今年度、庄内川流域を対象に作成予定
- 地域におけるポテンシャルマップの実装に向けた方策の検討、手引きの取りまとめ。

事業イメージ

① 令和元年東日本台風被害を受けた地域、Eco-DRR※実装に関心のある地域を中心に対象を選定。

② 生態系機能が流域全体での防災・減災に貢献した事例調査



③ 各種情報の重ね合わせ
・生物多様性情報
・地形図・地質図
・既存のハザードマップ
・古地図(旧湿地・氾濫原等)

④ 旧河川・旧湿地・旧氾濫原など

- ・希少種の生息適地、生態系サービスの向上が見込めるなど自然再生させるべき場所
 - ・災害リスクが比較的高かつ防災効果が高い場所
- を抽出。

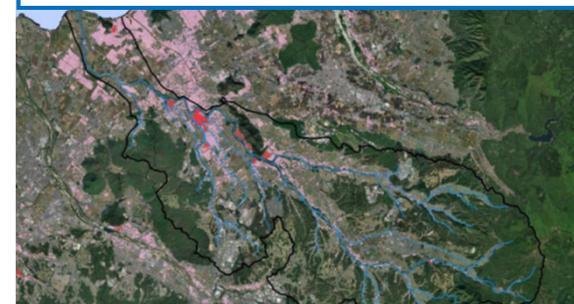
⑤ 生物多様性地域戦略などの保全計画や、地域づくり・国土強靱化地域計画・流域防災等の計画・構想へのインプット・提言(関係省庁と連携)。

⑥ 令和4年度をめぐりに、自治体向けに技術的知見をとりまとめた「手引き」をとりまとめ、自然と調和し、災害に強く、維持管理コストの低い地域づくり・街づくりに貢献。

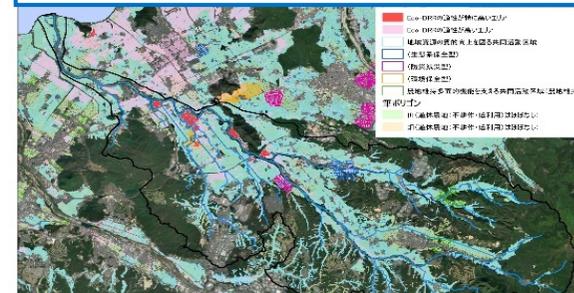
ポテンシャルマップのイメージ

- ・生物多様性情報
 - ・かつての地形
 - ・ハザード情報等
- を重ね合わせ

Eco-DRR適地の抽出



土地利用関連施策との重ね合わせ



※Eco-DRR(Ecosystem-based Disaster Risk Reduction): 自然災害に対して脆弱な土地の開発や利用を避け災害への暴露を回避するとともに、防災・減災など生態系が有する多様な機能を活かして社会の脆弱性を低減すること